

# 「校宝の松」

発行者 校長 縄田 淳一  
平成30年6月13日(水)



## 涙、涙の「PTA人権学習講演会」 ～大切な命・当たり前こそ、ありがたい!～



3日に行われました人権学習に係る授業参観、PTA人権学習講演会、そして救急法講習とたくさんの行事がある中、たくさんの方にご参加いただきまして誠にありがとうございました。

中でも、「ワンライフプロジェクト」の方々の朗読による講演会は参加された保護者の皆さん、ほとんどの方々が「今日は、来てよかった」と満足されて帰られたことだと思います。

それだけ、子どもに関わる大人として、自分を振り返る、心にしみる講演会でした。

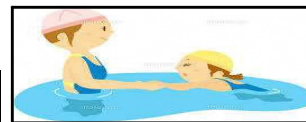
- ・日頃、時間に追われ、余裕がなく子どもたちに寂しい思いをさせていることを深く反省しました。「今」は今しかないので、子どもたちにたくさんの愛情を注いであげないといけませんね。その中で、子どもたちに命の大切さを伝えることが出来るんだと思います。今日の朗読を聞くことができるとても良かったです。
- ・「たったひとつの命だから」の講演は自分自身と重なることが多々あり、涙をこらえるのに必死でした。この講演は高学年の子どもが聞いても良かったと思います。
- ・どの話も心にしみました。涙が出ました。健康で当たり前の日常がどれほど幸せで大切なことなのか考えさせられました。ありがとうございました。
- ・心にしみる時間をつくっていただき、ありがとうございました。涙がたくさんあふれました。命を大切に、今日は我が子をハグします。

アンケートの一部ですが講演を聴かれた方、すべてがこのような感想でした。

また、この講演を聞いた後だったので、先日起きた「新幹線での通り魔の事件」や「東京目黒区で虐待を受けて亡くなった5歳の結愛ちゃんの事件」に対して、強い、強い憤りを感じたのは私だけではないでしょう。必死にノートに「もっとあしたはできるようにするからもうおねがいゆるして・・・」と書き綴って亡くなった結愛ちゃんが心ある保護者の元に生まれてきていたなら・・・。悲しい事件でした。命の尊さについてお子さんと話題にしていただけたら幸いです。



### プール指導にあたってのお願い



大石小では水に対する恐怖心を払拭できるまでは「ゴーグル」は原則、使用しないようにしています。例えば、高学年で25m泳げない子どもさんで1年からゴーグルを付けたままだったため、目を開けることができないため、水への恐怖心がとれず体が硬直し、いつまでも、水に浮けない、泳げないこと事例も多いのです。

自分の力で泳げないより自分で泳げる方が良いに決まっています。なぜなら、自分の命を守れます。子どもさんの自信につながります。このような趣旨をご理解いただき、ご協力お願いします。ただし、眼科のお医者さんの診断があるなら仕方ありません。その場合は担任にご連絡ください。